令 和 ５ 年 度　自 己 評 価 計 画 書

石川県立金沢辰巳丘高等学校

重　点　目　標	具　体　的　取　組	主担当	現　　状	評　価　の　観　点	達　成　度　判　断　基　準	判　定　基　準	備　　考
1 ICT 機器を積極的に活用しつつ、主体的・対話的で深い学びや個別最適化された学びを実現する授業実践に努め、学習意欲の向上や学習習慣の定着を図り、課題を発見し解決できる力を育むことを通して、個々の進路実現を目指す。	① 主体的・対話的で深い学びの実現のために、校内で全ての教員が研究授業・公開授業を行い、授業参観や校内外での研修、教員間の情報交換を通して、ＩＣＴ機器およびアプリケーションソフトを効果的に活用する授業を実践する。	教務課 情報課 各教科	全教員がＩＣＴ機器を効果的に活用した授業改善を積極的に行っているが、授業に生徒用端末を効果的に組み込めていない場面もみられる。機器やアプリケーションの特性の理解と授業構成力の向上に継続的に取り組む必要がある。	【努力指標】 年間を通して、ＩＣＴ機器およびアプリケーションソフトを効果的に活用した授業実践を継続的に行っている。	ＩＣＴ機器を効果的に組み込んだ授業を実践していると答える教員の割合が A　９０％以上である B　８０％以上である C　７０％以上である D　７０％未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	７月、１月に調査する。（教員によるアンケート）
	② 指導と評価の一体化の実現のために、学習計画に沿った指導と評価を実施し、生徒の実態に合わせた改善を定期的に学校全体で行う。このサイクルを各教科で定着させる。	教務課 各教科	多くの授業で、生徒の実態に対応した指導をしているが、各教員の力量や教科の経験的な蓄積に頼っている。組織の構成や教育課程が変化する中で、本校の学習指導力の維持と発展に取り組む必要がある。	【努力指標】 各教科で指導と評価の一体化を実現するために、授業評価を参考に授業の改善・充実を図る一連のサイクルを確立する。	指導と評価の一体化の趣旨を理解し、授業、学習評価、学習評価に基づく授業改善の一連のサイクルを実践していると答える教員の割合が A　８０％以上である B　７０％以上である C　６０％以上である D　６０％未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	７月、１月に調査する。（教員によるアンケート）
	③ 生徒が授業以外で学ぶ習慣を身につけるために、ＩＣＴ機器を活用して学校外で学習する予習・復習のための課題の提示や、定期テストなどと結びつけた計画的な学習指導を行う。また、引き続き学ぶことの楽しさを体感するような授業の実践とＩＣＴ機器の機能を活かした課題等で学習に取り組みやすい環境を整備する。	教務課 各学年 各教科	学習時間が１時間以上の生徒の割合が42.4％と少なく、定期試験直前を除き継続して学習に取り組む習慣が定着していない。	【成果指標】 各教科でＩＣＴ機器を活用して計画的に課題を与え、その提出や評価を適切に行う。放課後学習や自己実現のための学習を含めた授業以外の学習時間の確保を図る。	平日の学習時間（授業以外）が１時間以上であると答える生徒の割合が A　８０％以上である B　７０％以上である C　６０％以上である D　６０％未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	７月、１月に調査する。（生徒によるアンケート）
	④ 計画的なキャリア教育を行うとともに個人面談を継続的に行い、目標を明確化させ、有意義な高校生活を送ることができるよう支援を行う。進路関係の行事においては、生徒が主体的に参加できる形式にする。学校行事や部活動で得た達成感が将来の目標設定につながるよう工夫する。	進路指導課 各学年	昨年度実施した進路関連行事の大部分が、一方的な説明を受けるものであるなど、生徒が主体的に参加できる形式のものが少なかった。また、１人１台端末等のＩＣＴ機器を活用した進路学習の取組についても十分とはいえず、生徒が能動的に進路を開拓する要素が不足していた。	【満足度指標】 本校でのキャリア教育が、探究的に行われ、生徒が主体的に学べるよう計画的かつ効果的に機能し、生徒の進路目標が明確化している。	本校でのキャリア教育が、生徒の主体的な活動をとおして意義あるものとなっていると答える生徒の割合が A　９０％以上である B　８０％以上である C　７０％以上である D　７０％未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	７月、１月に調査する。（生徒によるアンケート）
2 挨拶や時間管理、服装容儀などの指導を通して、基本的な生活習慣を身につけ自律性を高めるとともに、外部の方との対話を通して、協調性やコミュニケーション力を高める。	① 遅刻の多い生徒の情報を全教職員で共有し、声かけを繰り返して時間の大切さを自覚させる。また、保護者との連携を図りながら遅刻の減少を目指すことで規範意識の涵養に努める。	生徒課 各学年	特定の生徒の遅刻数は横ばいまたは増加傾向にあった。生活リズムの見直しを含めた徹底した遅刻指導、保護者との協力体制構築などの取組を継続し、遅刻常習者の行動改善に繋げていく。	【成果指標】 年間を通じて遅刻５回以上の生徒の割合が、令和４年度を下回るようにする。	年間を通して遅刻５回以上の生徒の割合が A　１０％未満である B　１５％未満である C　２０％未満である D　２０％以上である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	年度末に調査する。
	② 個人面談を充実させ、生徒の様子を観察する。また、いじめ等の問題には早期にいじめ問題対策委員会（対策チーム）を中心に全教職員で連携し、解決にあたる。	生徒課 教育相談室 各学年	前年度は重大事案につながるようないじめはなかった。全体的に落ち着いてはいるが、大きな問題に発展しそうな人間関係のトラブルも散見されるため、初期指導をさらに強化し、問題を未然に防いでいく。	【満足度指標】 全職員が共通理解し、いじめ等の問題に迅速に対応し、生徒が安全で安心して学ぶことができる教育環境になっている。	各課・学年と連携がとれて、いじめ等の問題を抱えた生徒の早期把握と組織的対応がとれたと答える教員が、 A　９０％以上である B　８０％以上である C　７０％以上である D　７０％未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	７月、１月に調査する。（教員によるアンケート）

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
3 校種間交流や地域と連携した探究活動を積極的に行い、地域や自分たちに関わる諸課題の解決・改善策を検討・考察する経験を通して、豊かな人間性と社会性を育むとともに、生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりをより一層推進する。	① 地域及び小中学校、大学等との交流活動を実施し、その情報を様々な広報活動を通して発信することで、本校の教育活動への理解と協力を促進する。	総務課 各コース	保護者の方々に向けての各種情報についてはホームページの更新やメール配信により周知を図っているが、発信の仕方や内容についてはさらなる工夫や改善が必要である。今後は閲覧者の立場に立った内容の充実を追求したい。メール配信の登録率は高くなったが、一方で学校からの通知や配付物があった際の周知が不十分である。	【満足度指標】 各コースの特色を活かした地域や小中学校、大学等との交流活動等について、その取り組みや内容が保護者等にしっかりと伝わり、活動に対しての理解や協力を得ることができる。	各種の交流活動等について、広報活動を通して学校の取り組みがよくわかると答える保護者の割合が A　９０％以上である B　８０％以上である C　７０％以上である D　７０％未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	７月、１月に調査する。（保護者によるアンケ ート）
	② 地域や小中学校、大学等との交流事業、学校行事など、本校の特色ある教育活動の様子を、即時性を意識してホームページ等を通して積極的に外部に発信する。	総務課 各コース	発信の取組に関しては、教員間での差が大きい。学校行事に関しては、担当する部署（課・学年等）による更新は積極的に行われているが、部活動に関しては全般的に低調である。	【努力指標】 行事が終了するごとに情報の更新を速やかに行う。部活動に関しては各学期ごとに最低１回は更新する。	担当する部署（課・学年等）や部活動におけるホームページの更新回数が、年３回以上であると答える教員が A　８５％以上である B　７５％以上である C　６５％以上である D　６５％未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	７月、１月に調査する。（教員によるアンケート）
	③ 地域に根ざした学校づくりを推進するため、生徒会が中心になり奉仕活動を展開し、地域の方々と積極的に関わる機会を増やす。また、芸術コースの生徒が地域の行事に積極的に参加し本校の活動や取組を発信していく。	生徒課 各学年	ここ数年、コロナ禍の影響を受け、生徒会、部活動、音楽専攻、美術専攻の生徒たちは以前のように近隣の学校や施設を訪問することができなかった。現在は規制等の緩和によってこの状況が打開され、学校や施設への訪問、交流の再開が見込まれるため、地域清掃や除雪、演奏会、合同練習、美術作品展、似顔絵イベント、保育支援等を通じて地域との交流を深める準備を進めている。	【成果指標】 生徒の地域の方々と関わることに対する意識を高めるとともに、年間を通して近隣地域での各種ボランティア活動に可能な方法で取り組む機会を提供する。	近隣地域での各種ボランティア活動に複数回参加した生徒の割合が A　８０％以上である B　７０％以上である C　６０％以上である D　６０％未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	７月、１月に調査する。（生徒によるアンケート）
	④ 地域や保護者の方々とともに行う行事の中で、生徒一人ひとりが充実感・達成感を得ることができるよう生徒自らが主体的に企画・運営する。	生徒課 各学年	辰巳祭等の行事後のアンケートではほとんどの生徒が積極的に参加したと答えている。他の行事や活動にも生徒自身が企画・運営する場面をつくり、充実感や達成感が得られるよう工夫する必要がある。	【満足度指標】 生徒が生徒会行事に主体的に関わり、より積極的に参加し、充実感・達成感を得ることができる。	学校行事や生徒会活動に積極的に参加していると答える生徒の割合が A　９０％以上である B　８０％以上である C　７０％以上である D　７０％未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	７月、１月に調査する。（生徒によるアンケート）
4 教育活動の効果をより一層高めるため、学校や教員が担う業務の整理、ICT 機器活用による業務の効率化や業務分担の適正化等に積極的に取り組む。	① 職員の働き方を再考・工夫し、生徒一人ひとりに丁寧に関わりながら、学習指導・生徒指導など、各自の業務に専念できる環境づくりを進める。	管理職 各課・室 各学年	関係職員間の報告・連絡・相談は円滑に行われており、多忙化改善も少しずつ進んでいるが、多様な生徒への対応が増えている上、教員数減少により個々が担う役割も増えている。このため学年・教科・課の枠を超え、お互いが様々な形で連携しながら、業務の平準化を図る等、多忙化改善を推進することにより、全員のワーク・ライフ・バランスを実現するための取組を継続している。	【満足度指標】 全職員が計画的な業務の遂行を意識し、教材等の共有を図るほか、役割分担の見直しによる業務の平準化を行い、組織的な学校運営を行うことで、時間外勤務時間を減らす。	業務の平準化や部署間の連携により、働き方を改善する努力がなされていると答える教員が A　８０％以上である B　７０％以上である C　６０％以上である D　６０％未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	７月、１月に調査する。（教員によるアンケート）